



# キカガク研修 事例集



**製造業**

- 大手自動車メーカー企業 エンジニア 基礎・実践 PBL
- 住友重機械工業株式会社 ① ビジネス層 基礎・実践
- 住友重機械工業株式会社 ② エンジニア PBL
- 総合電気機器メーカー エンジニア 基礎・実践
- 大手電機・精密機器メーカー エンジニア 基礎・実践
- 大手電機・精密機器メーカー エンジニア ビジネス層 基礎・実践
- 大手製造インフラ企業 エンジニア ビジネス層 基礎・実践

**Sler**

- 株式会社NTTデータ ① エンジニア 基礎・実践 E資格
- 株式会社NTTデータ ② ビジネス層 リテラシー 基礎・実践
- 大手 Sler 企業 エンジニア ビジネス層 PBL
- 大手 Sler グループ社 ビジネス層 リテラシー 基礎・実践

**公共  
大学**

- 農林水産省 ① ビジネス層 基礎・実践 PBL
- 農林水産省 ① エンジニア 基礎・実践 PBL
- 防衛装備庁 ビジネス層 基礎・実践
- 国立大学 ビジネス層 基礎・実践

**小売**

- 大型商業施設企業 全社員 リテラシー 基礎・実践
- 大手コンビニ企業 ビジネス層 リテラシー 基礎・実践

**コンサル  
ディング**

- 外資大手コンサルファーム ビジネス層 基礎・実践
- 大手コンサルティング企業 ビジネス層 基礎・実践

**製薬**

- 大手製薬会社 エンジニア 基礎・実践

**金融  
保険**

- 金融ソリューション企業 エンジニア 基礎・実践
- 大手金融機関 ビジネス層 リテラシー 基礎・実践

**商社**

- 大手総合商社 ビジネス層 基礎・実践 PBL

**運輸業**

- 大手運輸グループ企業 全社員 基礎・実践 PBL

**建設  
不動産**

- 大手不動産企業 エンジニア ビジネス層 PBL



## 製造業

---

## 時系列データや画像データを用いた製造業特化型研修により次世代リーダー人材を育成

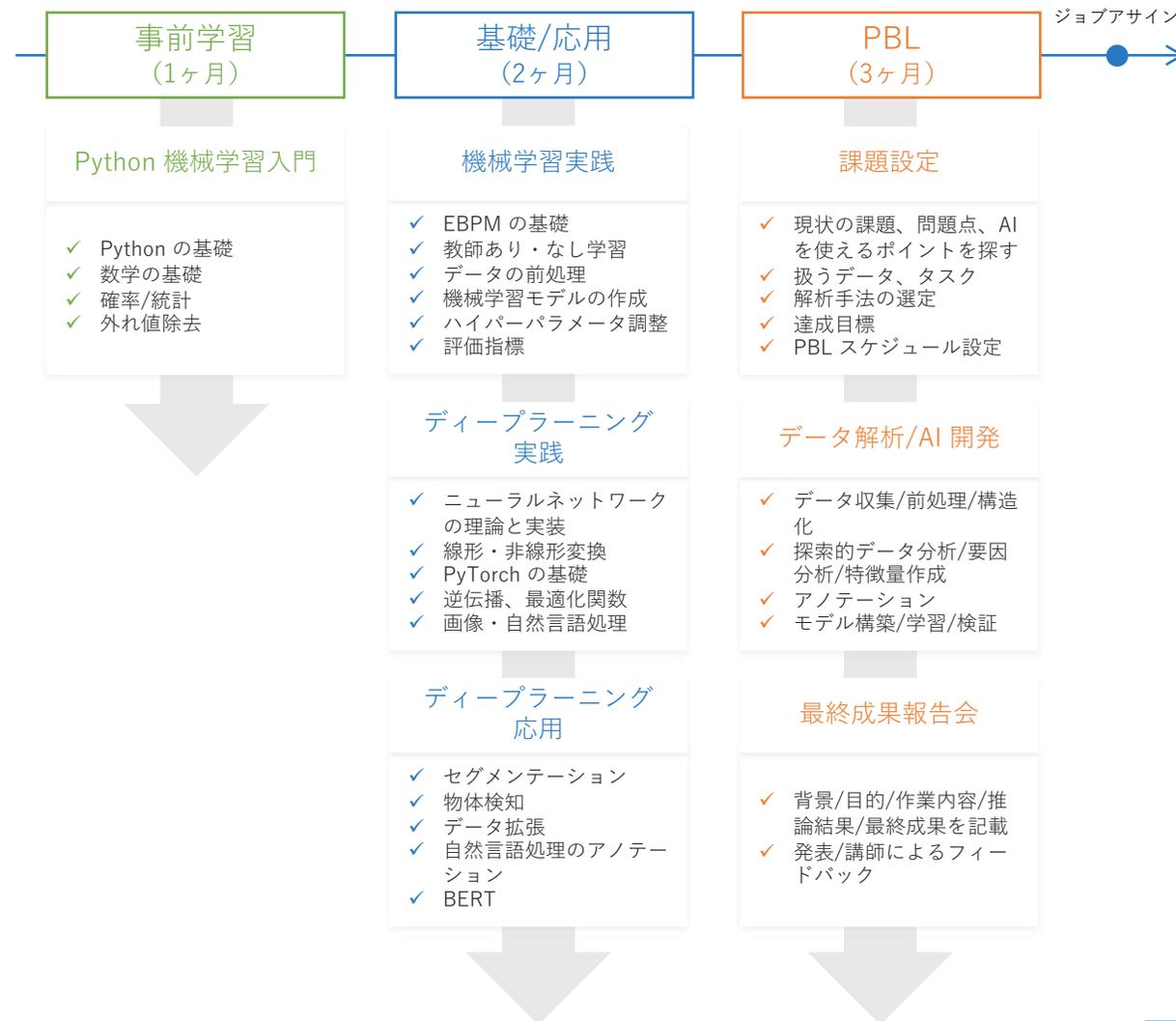


📅 期間	6ヶ月間	👤 形式	eラーニング + オフライン
👥 人数	20名	👤 対象	品質管理部門

### 課題・背景

- ✓ AIプロジェクトのリーダーとしてPoCを主導し、自らもPoCの全プロセスを遂行できる人材を育成する必要がある。
- ✓ 工程設備に困りごとを抱えているが、現状のスキルレベルでは限界を感じ現場で活かせるスキルを学ぶ必要があった。
- ✓ 自動運転がすぐそこまで迫っている社会で、蓄積したデータを利活用できる人材を増やす必要があった。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.67点
理解度 (5段階)	4.8点
講師の説明明瞭度 (5段階)	4.7点



## 先端技術研修により中堅社員 400 名の技術レベルを向上

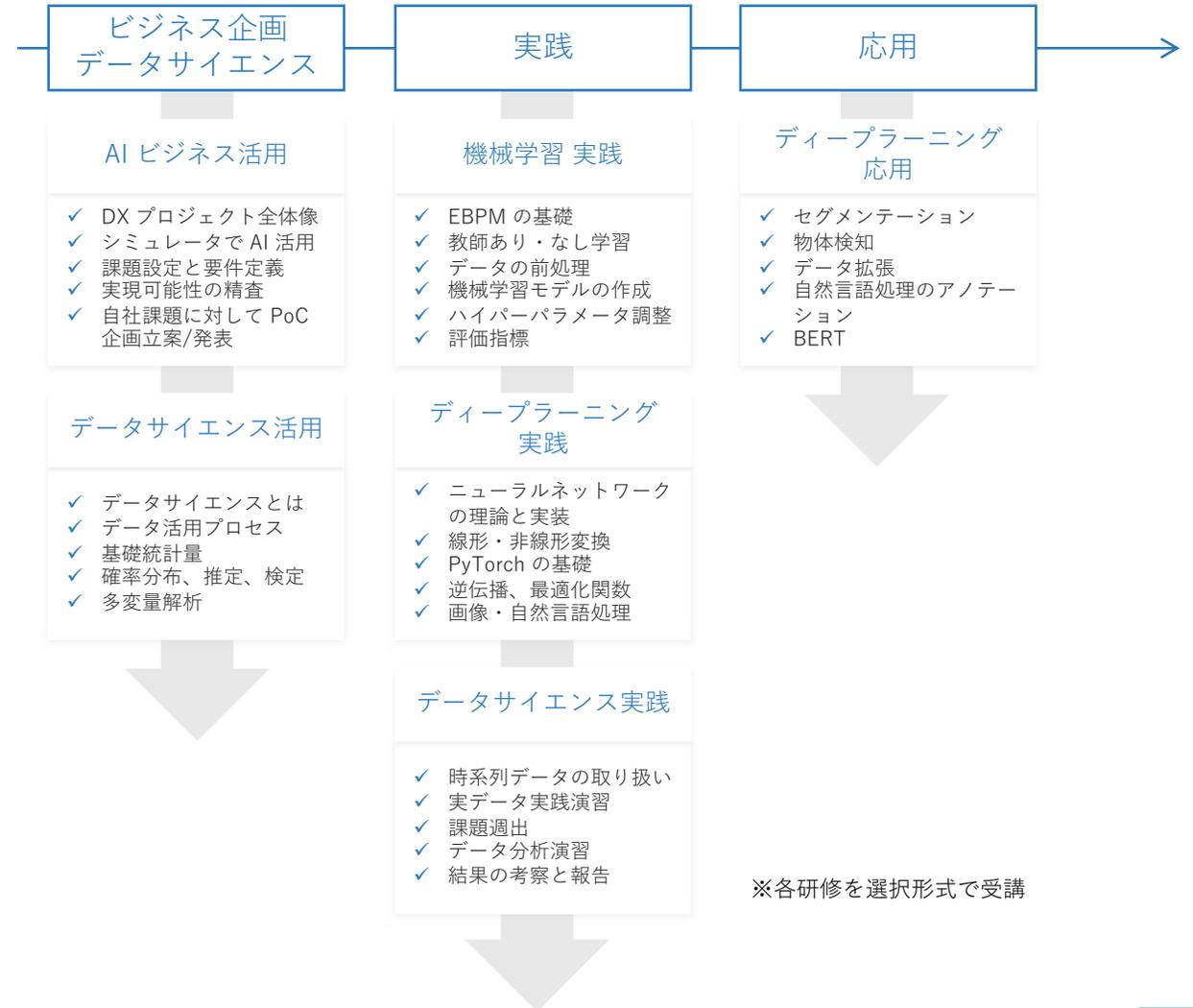
  eラーニング  
  講義  
  PBL

📅 期間	2 ~ 3 間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	400 名	👤 対象	ビジネス層

### 課題・背景

- ✓ 初級者向けの DX リテラシー向上研修はすでに実施していたが実務との乖離が大きく実活用につながっていない。
- ✓ 先端技術を実務で活用できる人材をより多く育成し、競合優位性を保つ必要があった。
- ✓ 課題から逆算して、先端技術をどのように活用できるのかイメージが湧いていない社員が多い。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.65点
理解度 (5段階)	4.51点
活用イメージ (3段階)	2.71点



## 実データを活用した問題解決型研修で次世代リーダーを育成

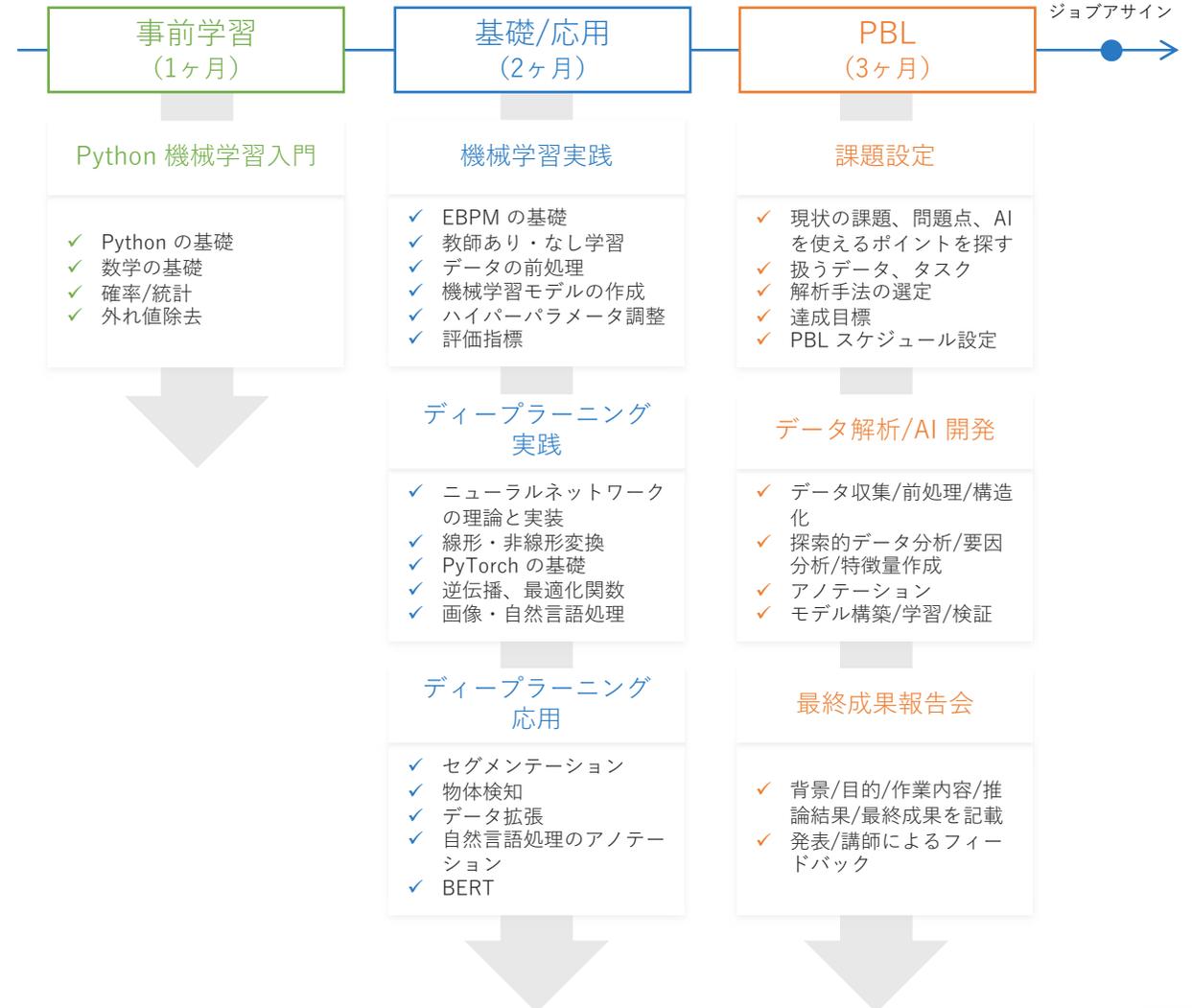


期間	6ヶ月間	形式	eラーニング + オフライン
人数	22名	対象	エンジニア

### 課題・背景

- ✓ 初級者向けの DX リテラシー向上研修や機械学習の理論を学ぶ技術研修は導入が進んでいる一方で依然として実現場での応用はなかなか進んでいない。
- ✓ 社内制度である専門技術教育選抜コースにも機械学習の専門講座を導入し、実現場において DX プロジェクトを主導する人材を育成する必要があった。
- ✓ 課題から逆算して、PoC 企画の立案や AI モデル開発を一連の流れで学び、自社の課題を題材にしたカスタマイズ研修を検討していた。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.9点
理解度 (5段階)	4.8点
活用イメージ (3段階)	3点



## 初学者を4ヶ月で成果物を作成できるデータアナリストへ育成

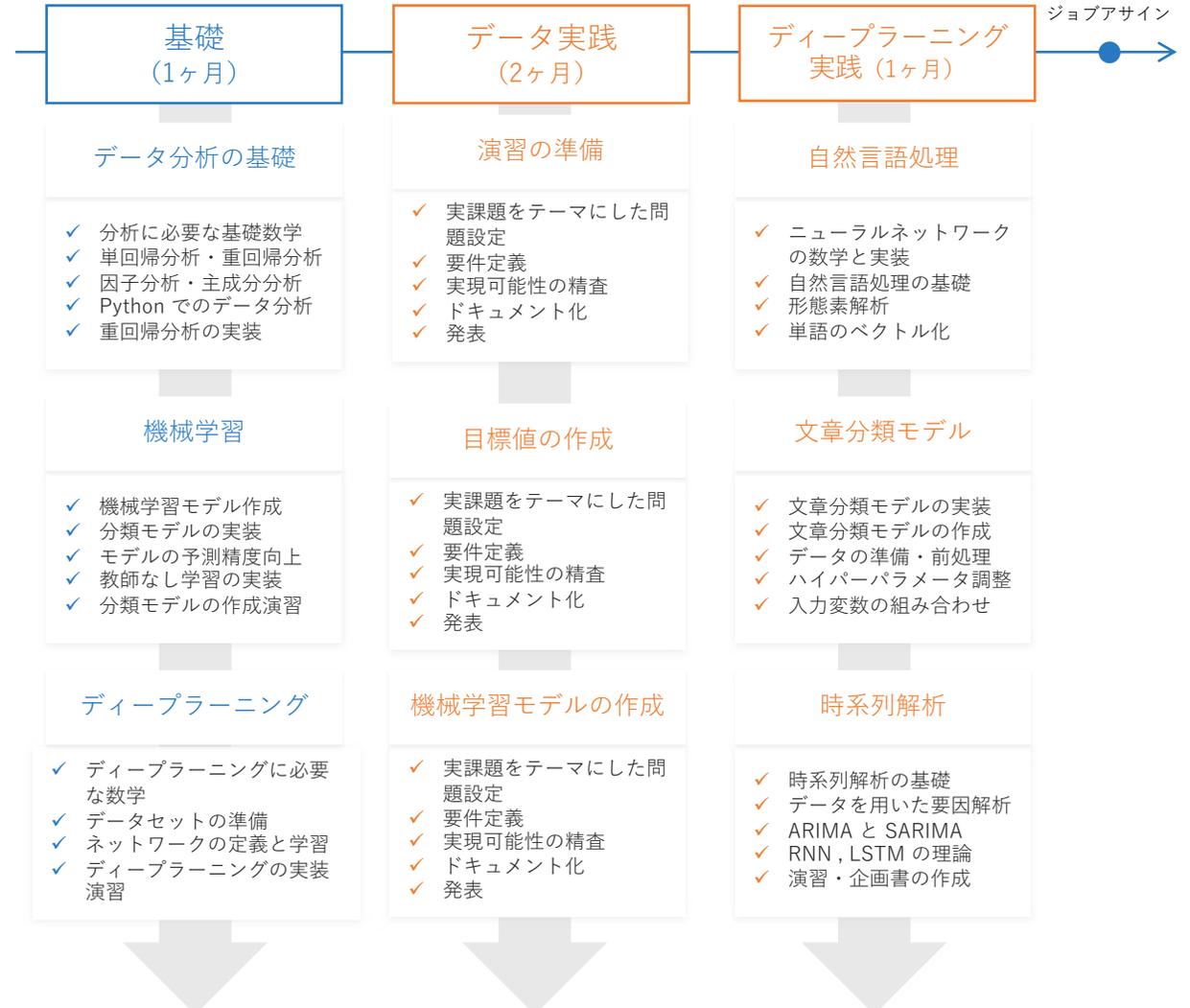


📅 期間	4ヶ月間	👤 形式	eラーニング+オンライン
👥 人数	5名	👤 対象	データサイエンス初学者

### 課題・背景

- ✓ HR 事業部のデジタル化・DX 推進が遅れており、社内 HR データアナリストの発掘・育成が直近の課題。
- ✓ 社内データ分析を外部の専門家（グループ企業、外部コンサル等）に委託している現状から、HR 事業部でのデータサイエンスの内製化を目指している。
- ✓ HR 事業部内の社員はほとんどがデータサイエンス初心者で基礎数学や、統計、プログラミングなどをデータ分析という観点で一から学習する必要がある。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	5.0点
難易度・理解度 (5段階)	3.6点
活用イメージ (3段階)	3.0点



## AI・機械学習を活用できる社内エンジニアを育成し、AIプロジェクトを加速

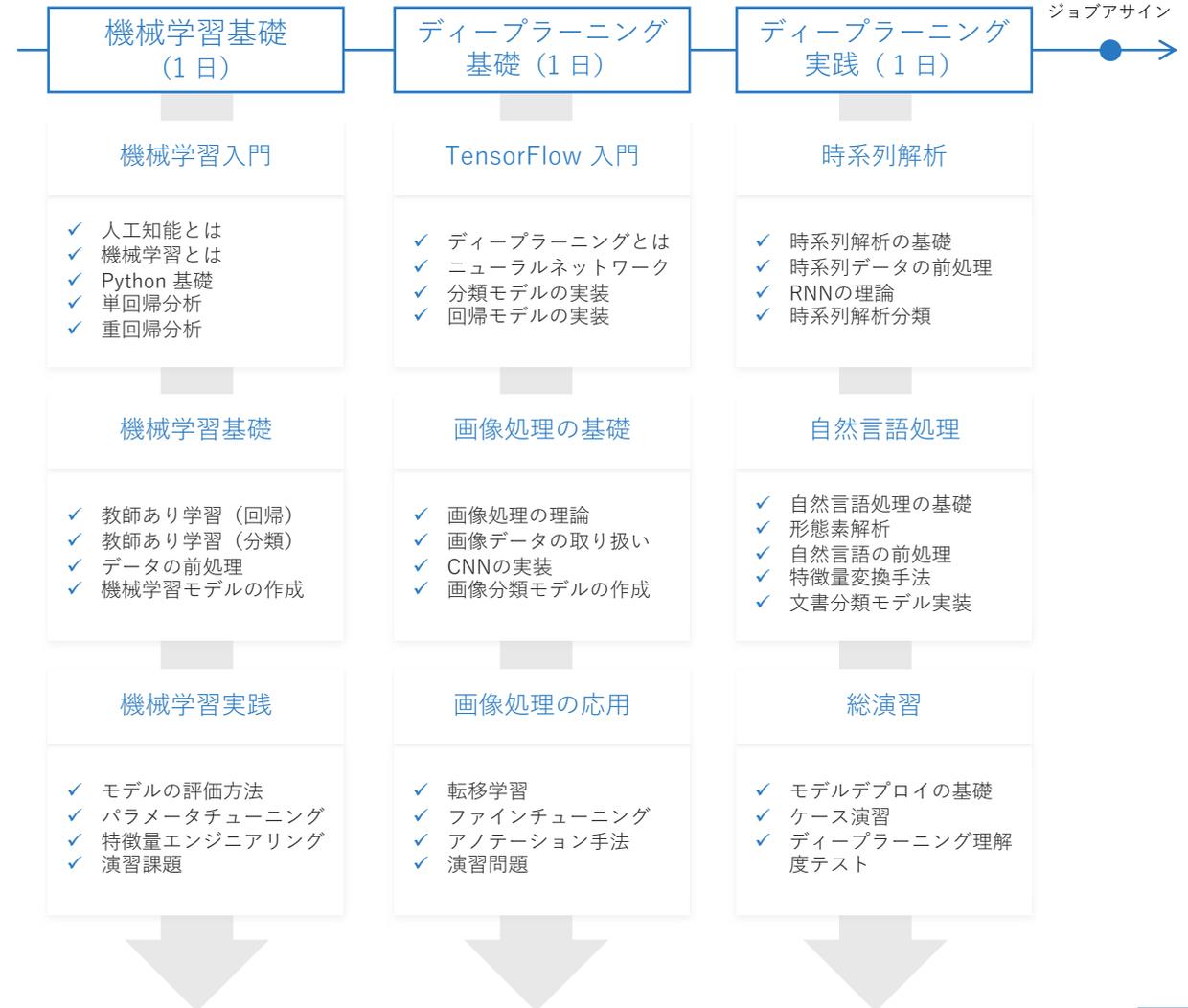


📅 期間	3日間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	27名	👤 対象	エンジニア

### 課題・背景

- ✓ 経営トップの方針としてグローバルに活躍できる人材の育成を掲げており、特に新たな事業開発につながるAI人材の育成に力を入れていた。
- ✓ 社内エンジニアのなかでも、AIなど先端技術を理解したうえで案件を実行・推進できる人材が不足していた。
- ✓ エンジニア育成を目的とした基礎レベルの講座はすでに導入しており、機械学習やディープラーニングを理論から体系的に学べる講座を探していた。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.2点
難易度・理解度 (5段階)	3.9点
活用イメージ (5段階)	4.0点



## 技術部門、営業・サービス部門、全社一丸で DX 推進の人材基盤をつくる

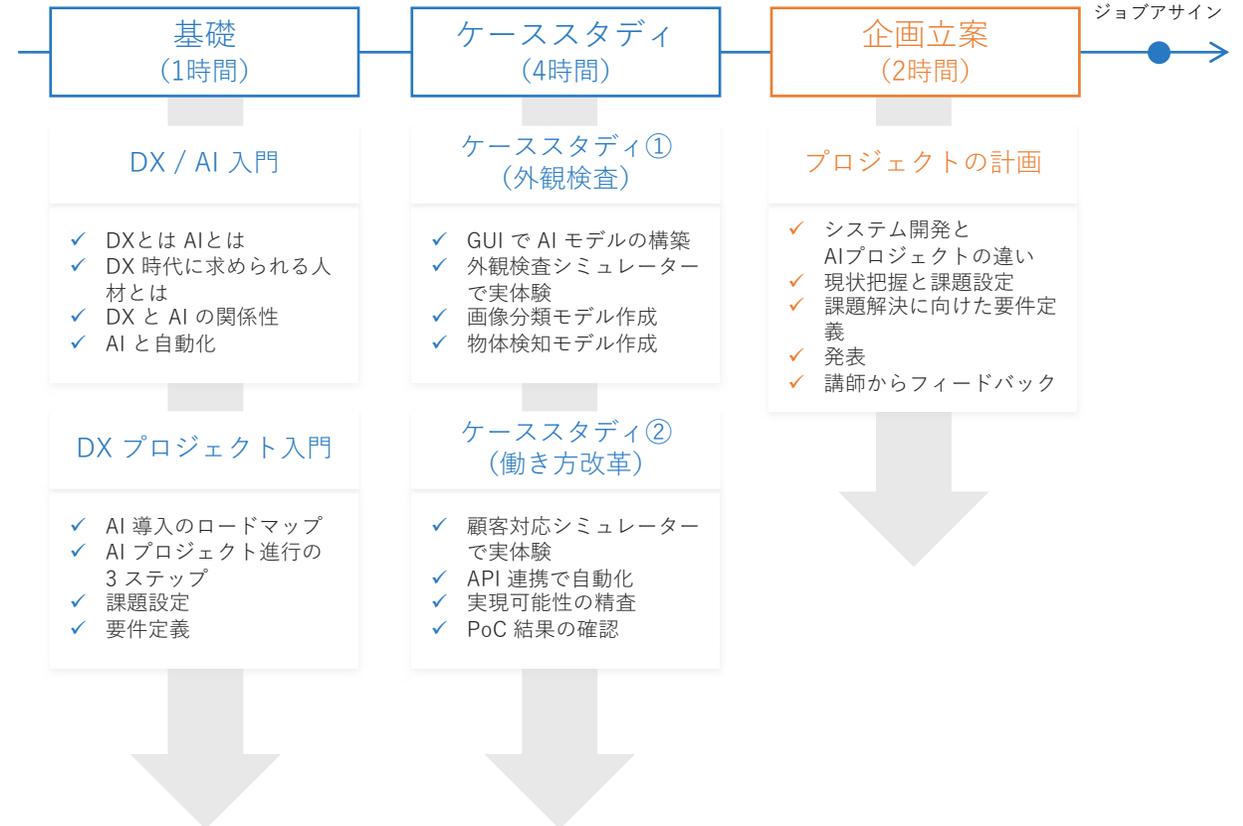
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	1日完結型	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	165名	👤 対象	技術職・営業職

### 課題・背景

- ✓ AI・IoTをはじめとした先端技術を活用したサービス事業開発に取り組んでおり、プロジェクトを推進できる人材を育成するため体系的な研修カリキュラムを必要としていた。
- ✓ 先端技術の理解だけでなく、どう実際のビジネスに活用できるか、事業企画の観点から知識を習得し、現場で企画推進ができる人材を幅広く育成したい。
- ✓ 技術者だけでなく、営業・サービス部門まで職種を問わず、部門横断的に連携したプロジェクト推進ができるよう、全社的にリテラシーを向上させたい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	3.7点
難易度・理解度 (3段階)	2.3点
講義の分かりやすさ (5段階)	4.2点



## 自社課題から逆算された実践研修で次世代リーダーを育成

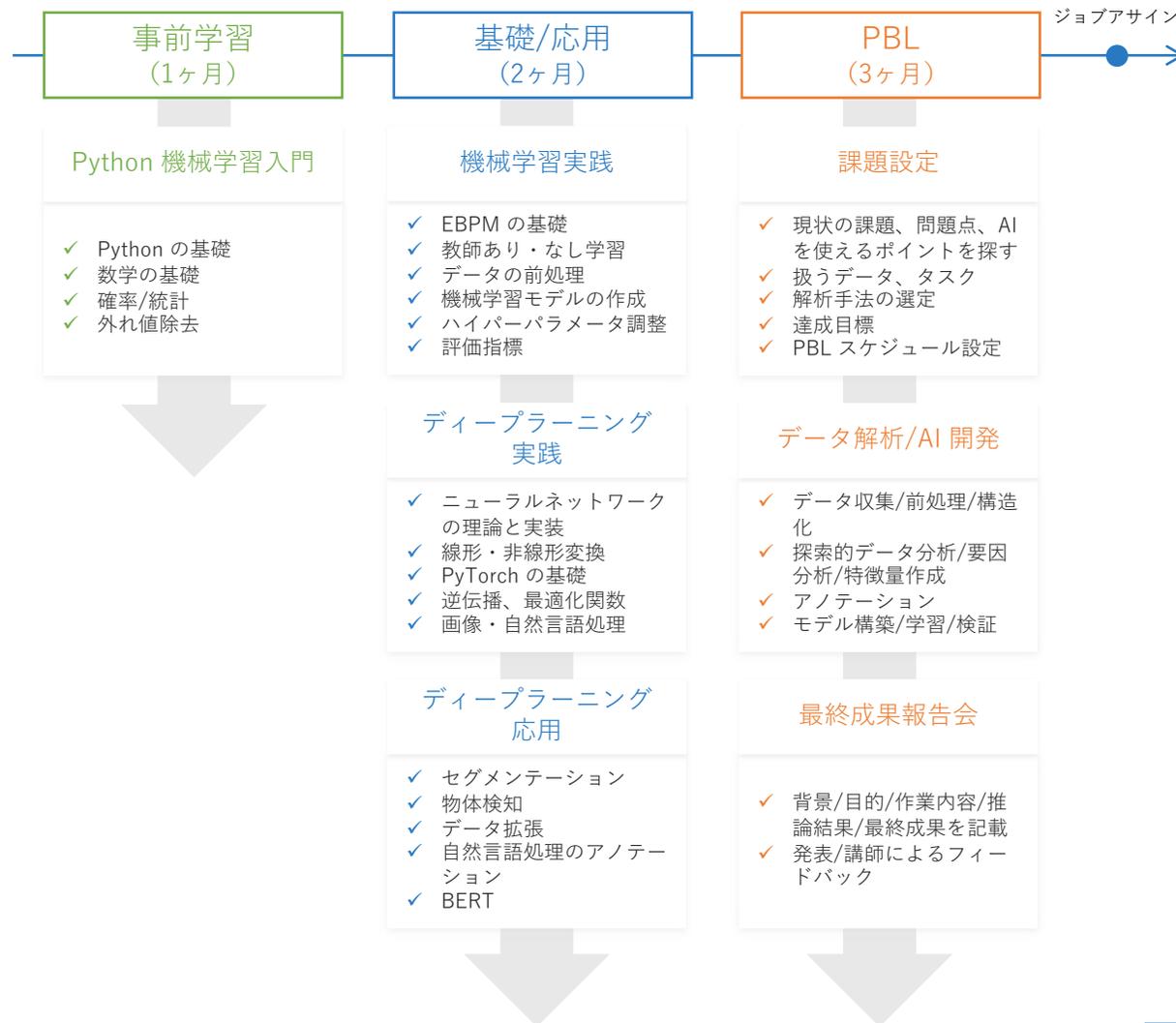


📅 期間	6ヶ月間	👤 形式	eラーニング + オフライン
👥 人数	基礎：55名/PBL：24名	👤 対象	エンジニア

### 課題・背景

- ✓ DX リテラシー向上研修や入門的な研修はすでに実施していたが実践的な取り組みはまだできていなかった。
- ✓ 技術が分かるだけでなく、事業化するための推進力、マーケティング力、マネジメント力を持った人材を育成する必要がある。
- ✓ 社内の課題から逆算して PoC 企画の立案や AI モデル開発を一連の流れで学び、実際のプロジェクトを主導できるリーダーを多く育成したい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.72点
理解度 (5段階)	4.67点
活用イメージ (3段階)	2.4点





## 小売業

---

## IT 知識ゼロから社内デジタル部門へ挑戦できる人材を育成

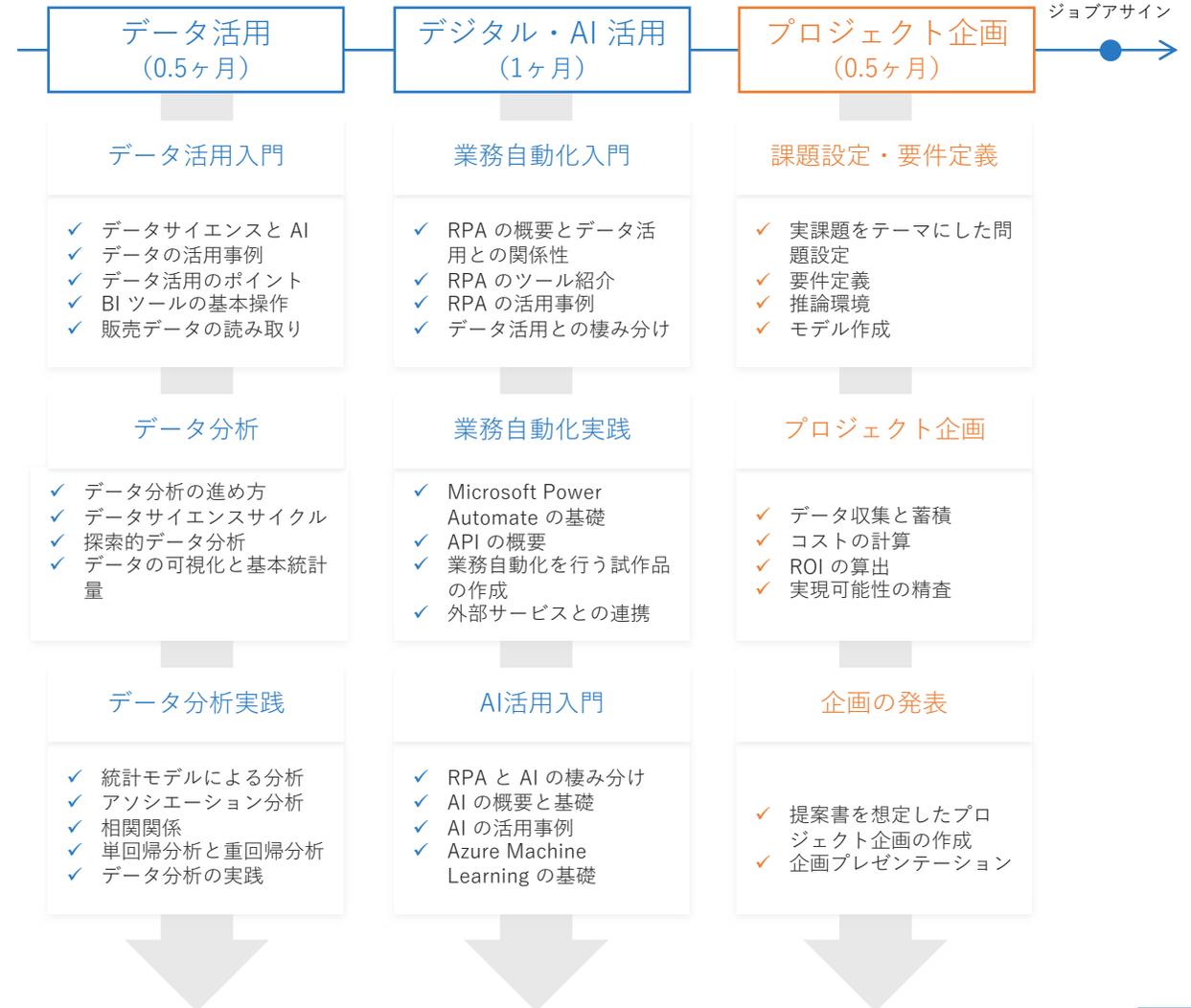
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	2ヶ月	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	100名	👤 対象	全社員向け

### 課題・背景

- ✓ 小売業特有の店舗でレジ打ちなどに携わる現場の社員（普段 PC を使用する業務をメインとしていない社員）が平等に挑戦可能で、目指すポストを獲得し、自己実現できる教育体制を整えたい。
- ✓ 従業員一人ひとりの「自分のキャリアは、自分で切り開く」という姿勢を大切にし、自身のキャリアを変えられる機会を提供したい。
- ✓ IT 人材不足を解消するため、IT 初心者から社内のデジタル部門で活躍できる人材を育成する社内教育制度を確立することが2030年までの大きな課題。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.2点
難易度・理解度 (5段階)	4.0点
活用イメージ (5段階)	4.2点



## ビジネス課題に応じた AI 活用の思考フローを身につけた人材の育成

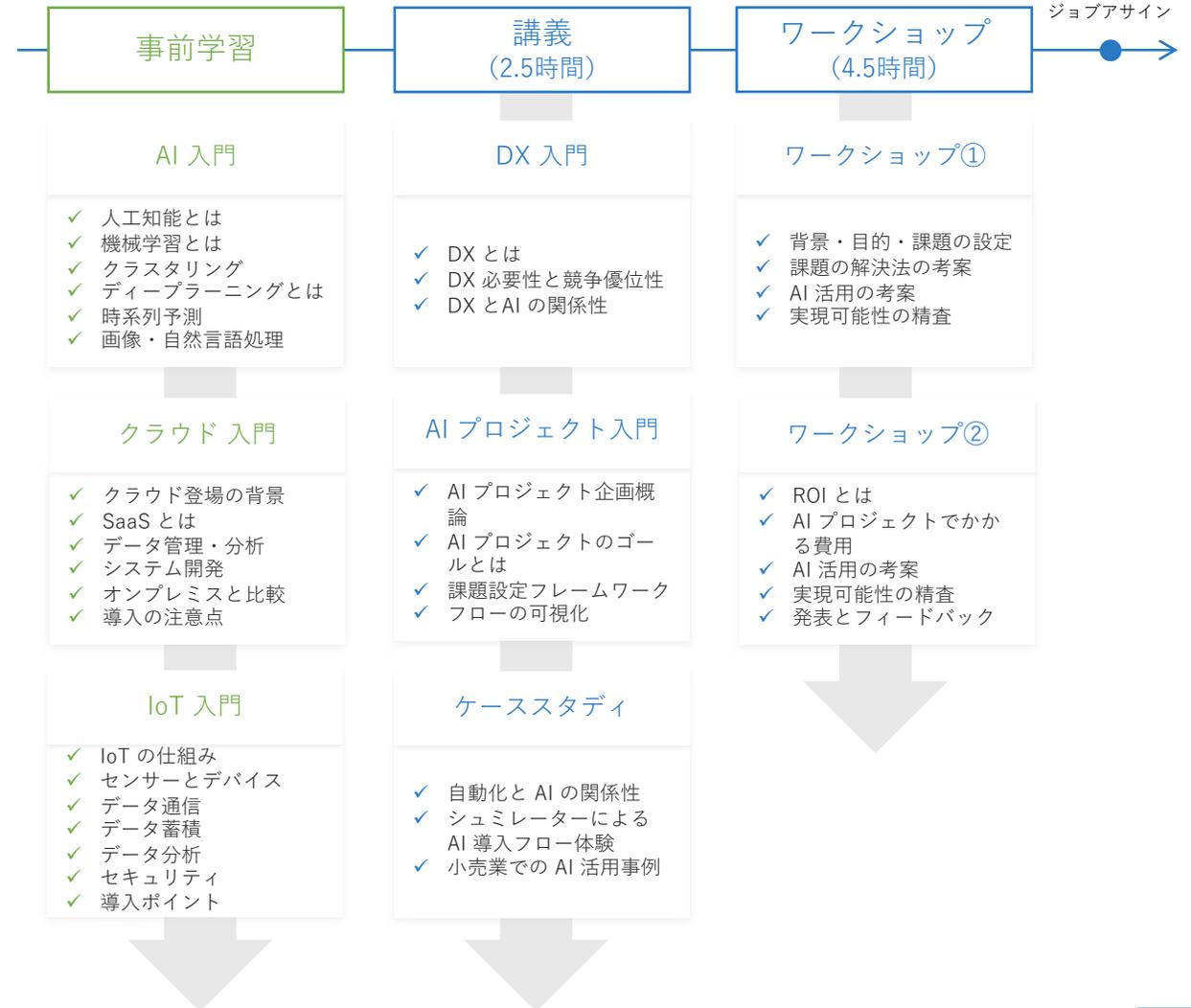


📅 期間	1日	👤 形式	オフライン研修
👥 人数	16名	👤 対象	ビジネス層

### 課題・背景

- ✓ 他部署メンバーとのワークショップを通じて、競争上の優位性の発見に繋がり、課題着眼から AI 活用検討に至る思考フローを身につけることができる研修を探していた。
- ✓ AI, 機械学習、データサイエンスなどの基礎知識を習得し、ビジネス課題に応じて解決方法を正しく取捨できるような人材が不足していた。
- ✓ 既存の研修の内容を小売業向けにアレンジした個社向けのカスタマイズ研修を実施。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.6点
講師の説明の明瞭度 (5段階)	4.6点
スキルの習熟度 (3段階)	2.6点





## 金融・保険

---

## 人流データを用いた実践型ワークショップを通して現場活躍に直結する人材を育成

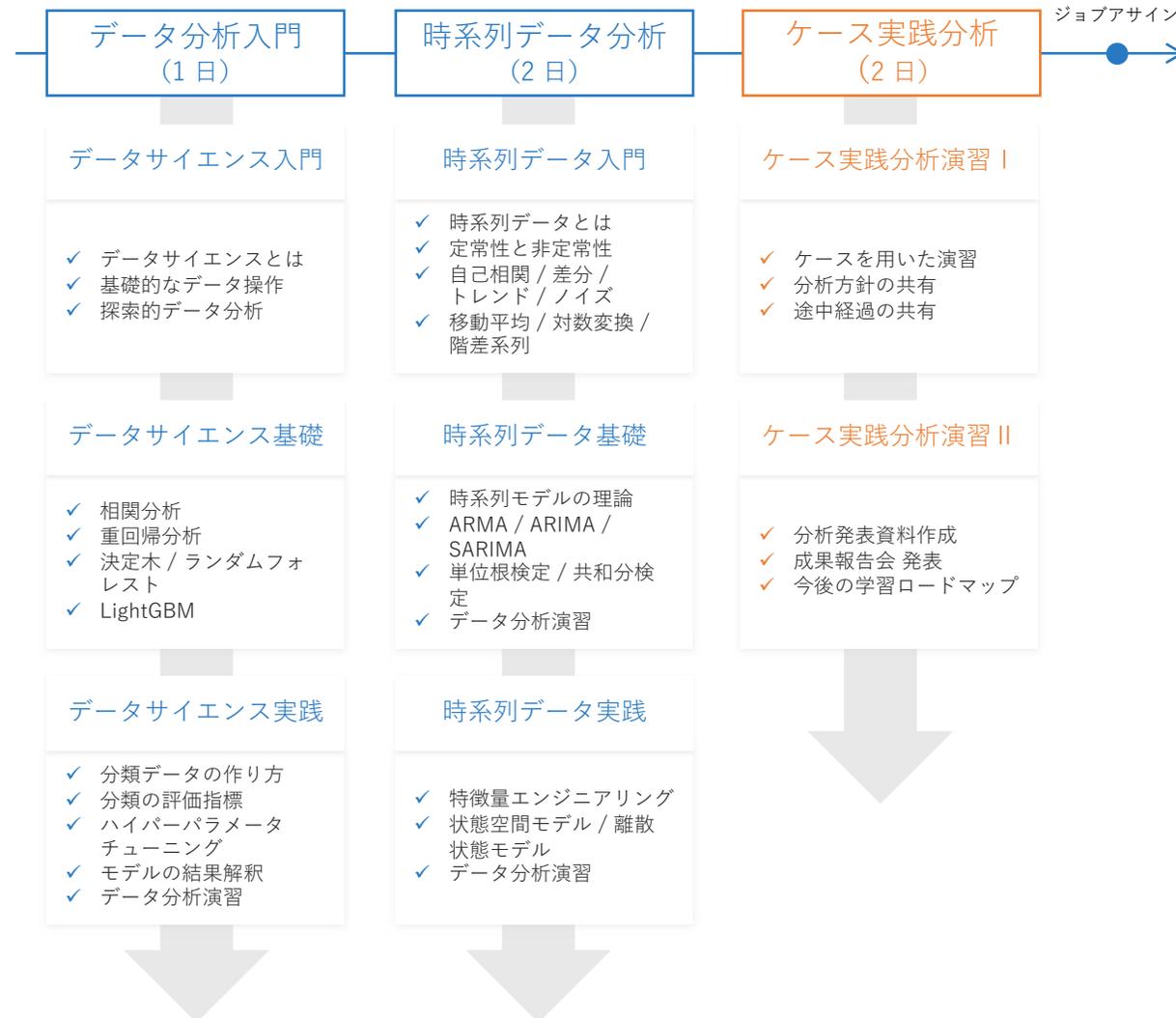
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	5日間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	4名	👤 対象	エンジニア

### 課題・背景

- ✓ 外部パートナーと連携して事業業績データを活用して金融機関向けサービスを構築する人材が必要不可欠である。
- ✓ 外部パートナーとの協業ニーズは年々増加傾向にあるものの、データ分析、データ活用を現場で実践できるスキルを持った人材が不足している。
- ✓ 社内の選抜人材をデータサイエンティストとして育成し、資産運用に価値のあるデータ活用を推進していくことができる研修プログラムを求めている。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.0点
スキル習得度 (5段階)	3.5点
活用イメージ (5段階)	4.0点



## AIを知り、DXプロジェクトを企画立案できる新入社員の育成

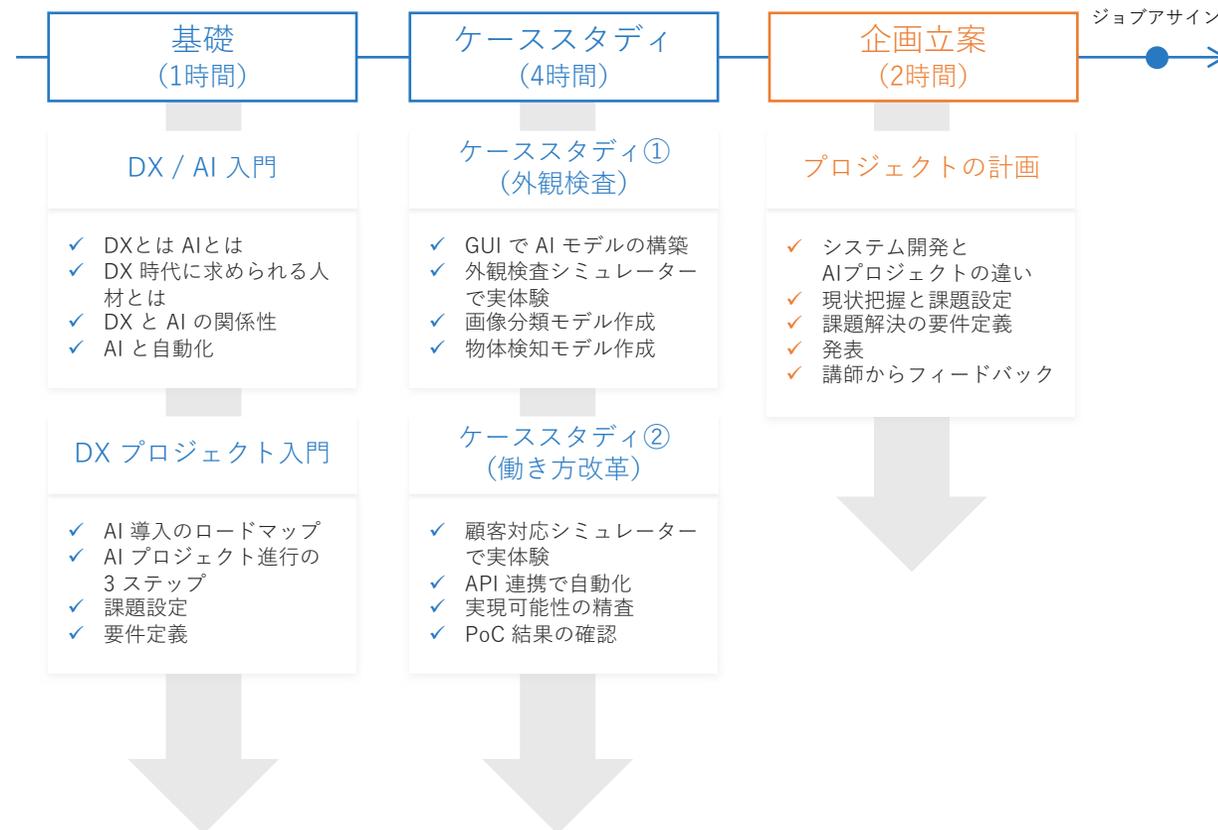


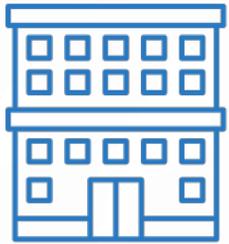
📅 期間	1日完結型	🖥️ 形式	オンライン研修
👥 人数	27名	👤 対象	新入社員

### 課題・背景

- ✓ 社内の様々なデータを活用して付加価値を作り出す事業ニーズが高まっている。
- ✓ データサイエンティストを社内で幅広く育成していくにあたり、技術面だけでなく、ビジネス上の課題と紐付けて現場で活用イメージを持つことができる研修プログラムを必要としていた。
- ✓ 中堅社員だけでなく、新入社員の段階からAIを理解し、どのようにビジネスに活用できるかを企画立案できる人材の育成が求められていた。

アンケート結果	平均点
研修満足度（5段階）	4.7点
スキルの習熟度（3段階）	3.7点
講義の分かりやすさ（5段階）	4.8点





## 建設・不動産

---

## 全社員の DX リテラシー底上げと役員向け講演で今後の DX 推進を後押し

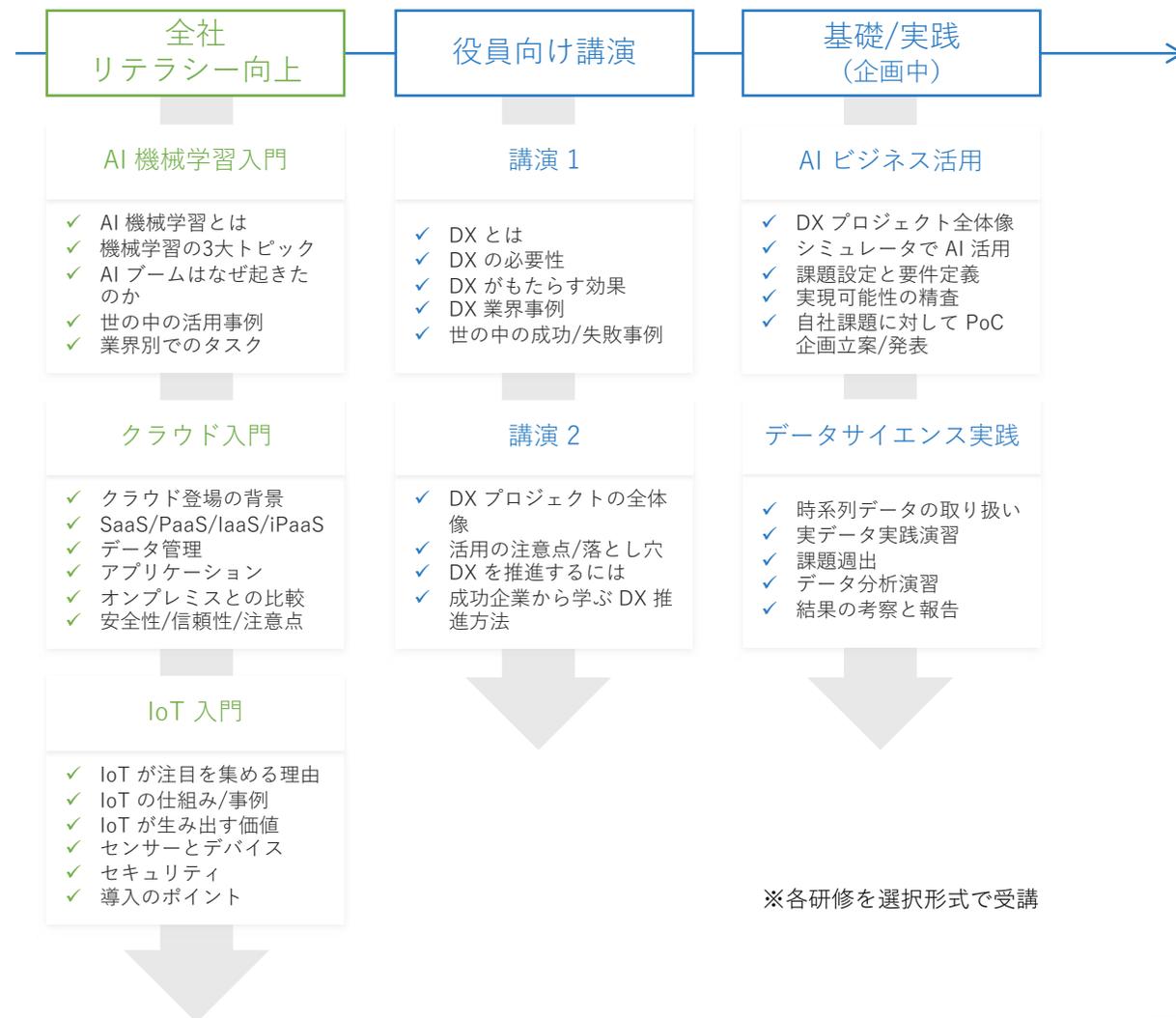


📅 時間	4.5 時間	🖥️ 形式	オンライン研修
👥 人数	140 名	👤 対象	全社員/経営層

### 課題・背景

- ✓ DX を推進しないといけないが、何をどのように始めればいいのかイメージできていない。
- ✓ 先端技術を実務で活用できる人材をより多く育成し、競合優位性を保つ必要があり、まずはリテラシーの底上げと経営層の育成が急務。
- ✓ アナログデータに振り回されており、苦手意識の克服や DX 推進のための勘所を掴む研修や講演を実施したかった。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	- 点
理解度 (5段階)	- 点
活用イメージ (3段階)	- 点





Sler

---

## E資格全員合格！20日間の集中講義にてAI案件を推進できる人材を育成

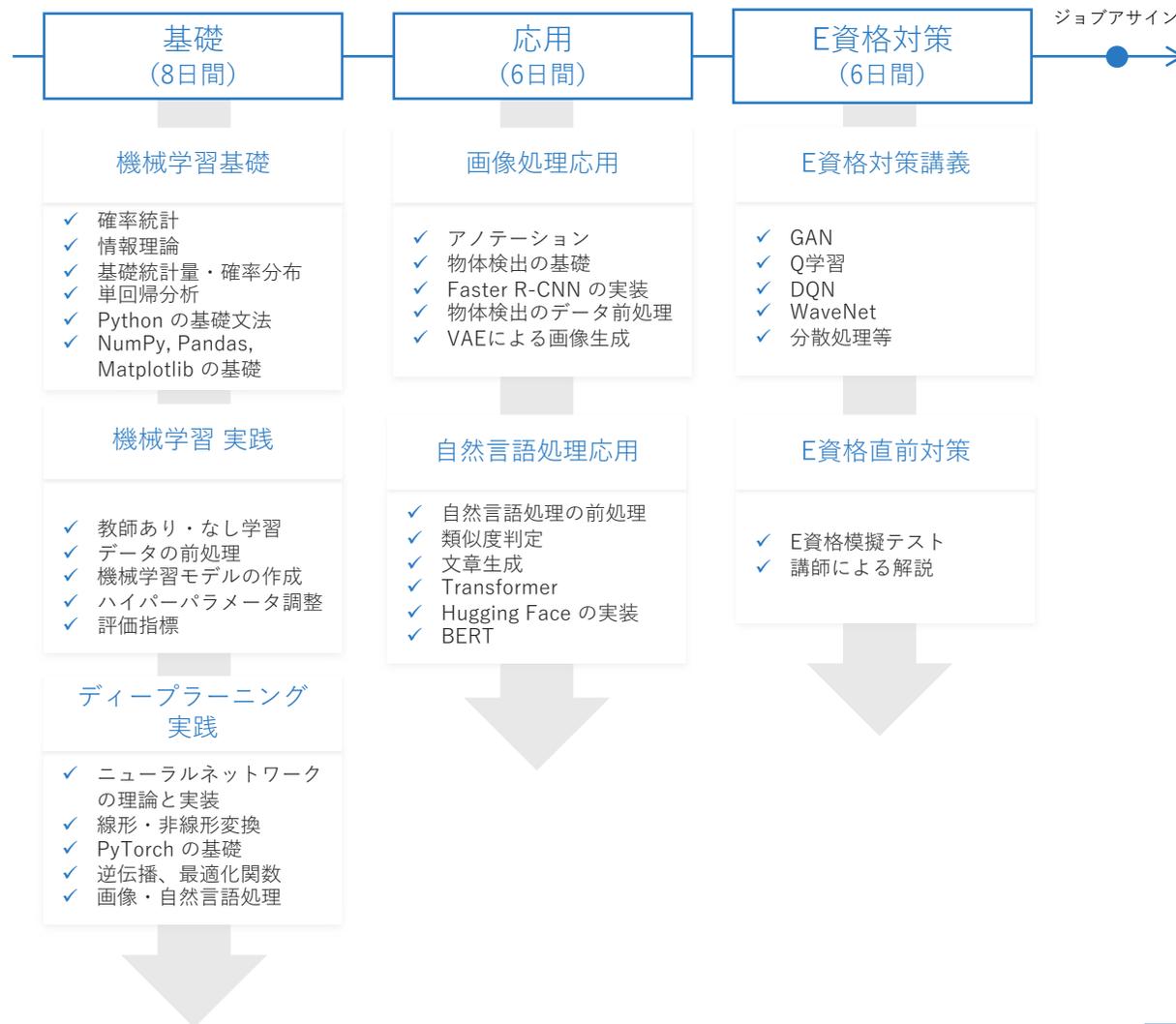
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	20日間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	22名	👤 対象	若手社員

### 課題・背景

- ✓ 技術を理解した上でAI案件を実行・推進できる人材が不足しており、AIの技術理解が浅い状態でプロジェクトに参画する場合があります、適切なリード・推進に懸念が見られた。
- ✓ AI案件の増加に対応しビジネス機会を逃さないようにするため、AIを技術面から理解し、適切にプロジェクトをリードすることができる人材を増やすことが必要であった。
- ✓ 体系立てて一本化された知識をもとに、顧客への説明力や提案力の向上を図る必要があった為、E資格の取得を目標とした集中研修を実施。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.7点
理解度 (5段階)	4.6点
説明の明瞭度 (5段階)	4.6点



## DX プロジェクトの全体像を把握しゼロから PoC の企画ができる人材を育成

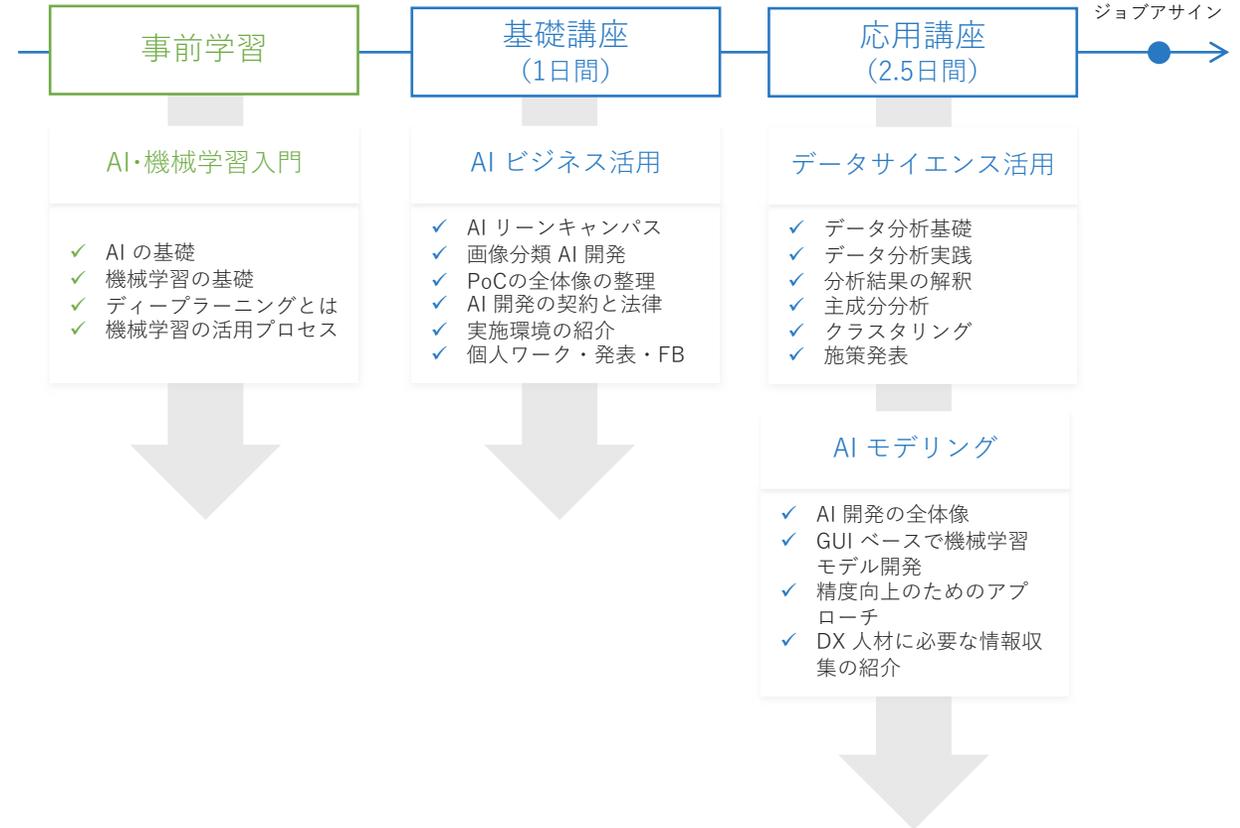
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	3.5日間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	60名	👤 対象	AI 初学者

### 課題・背景

- ✓ AI, 機械学習を活用したビジネス企画の立案やプロジェクトの推進をゼロから行うことができる人材が不足しているといった課題があった。
- ✓ クライアントの要望に対して実現可否を自ら判断し議論できるような人材を育成する必要があった。
- ✓ プロジェクトの推進に必要なデータサイエンス周辺の基礎知識を習得し、DX プロジェクトの全体像を把握しゼロから PoC の企画 できる人材を育成する研修を実施。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.1点
講義の理解度 (5段階)	3.9点
講師の説明の明瞭度 (5段階)	4.1点



## 4日間で AI 技術を基礎から学び、PoC を主導できる人材を育成

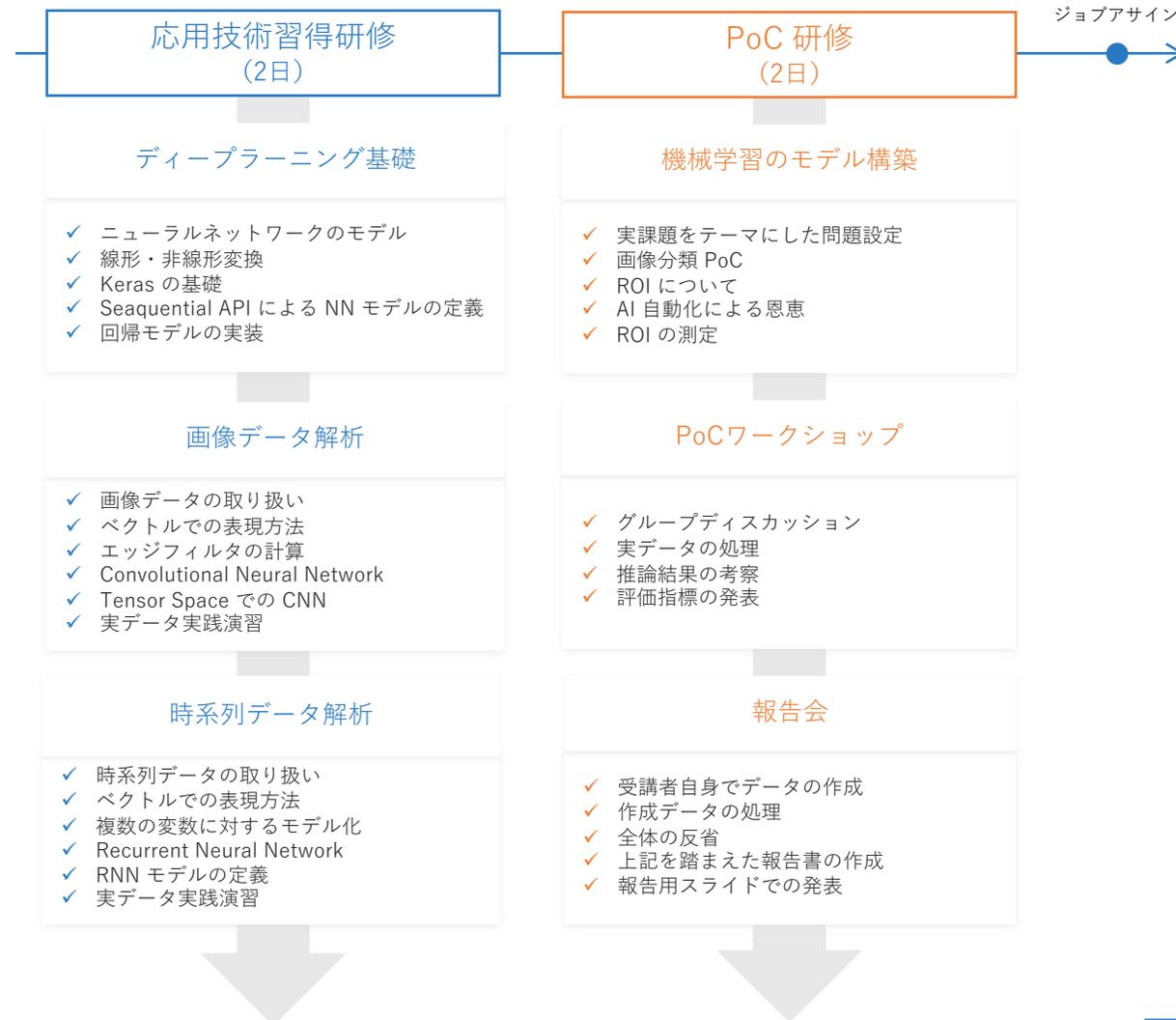


📅 期間	4日間	🖥️ 形式	オンライン研修
👥 人数	160名	👤 対象	ビジネス層・エンジニア

### 課題・背景

- ✓ Pythonの基礎レベルの習得、クラウドの活用方法、GUI 上でモデル評価の学習しているが、AI, 機械学習の導入までのイメージや方法を理解している社員が不足していた。
- ✓ 組織として DX 推進及び、AI, 機械学習などの先端技術を有し、研修後すぐに現場で活躍できる人材をより多く育成することが直近の社内課題となっている。
- ✓ Sler に特化したデータ収集、アノテーション、AI モデル構築、仮運用検証までの AI プロジェクトの PoC 工程を実践する必要があった。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.4点
難易度・理解度 (5段階)	3.6点
講師の説明の明瞭度 (5段階)	4.5点



## 新入社員を見習いデータサイエンティストレベルへ育成

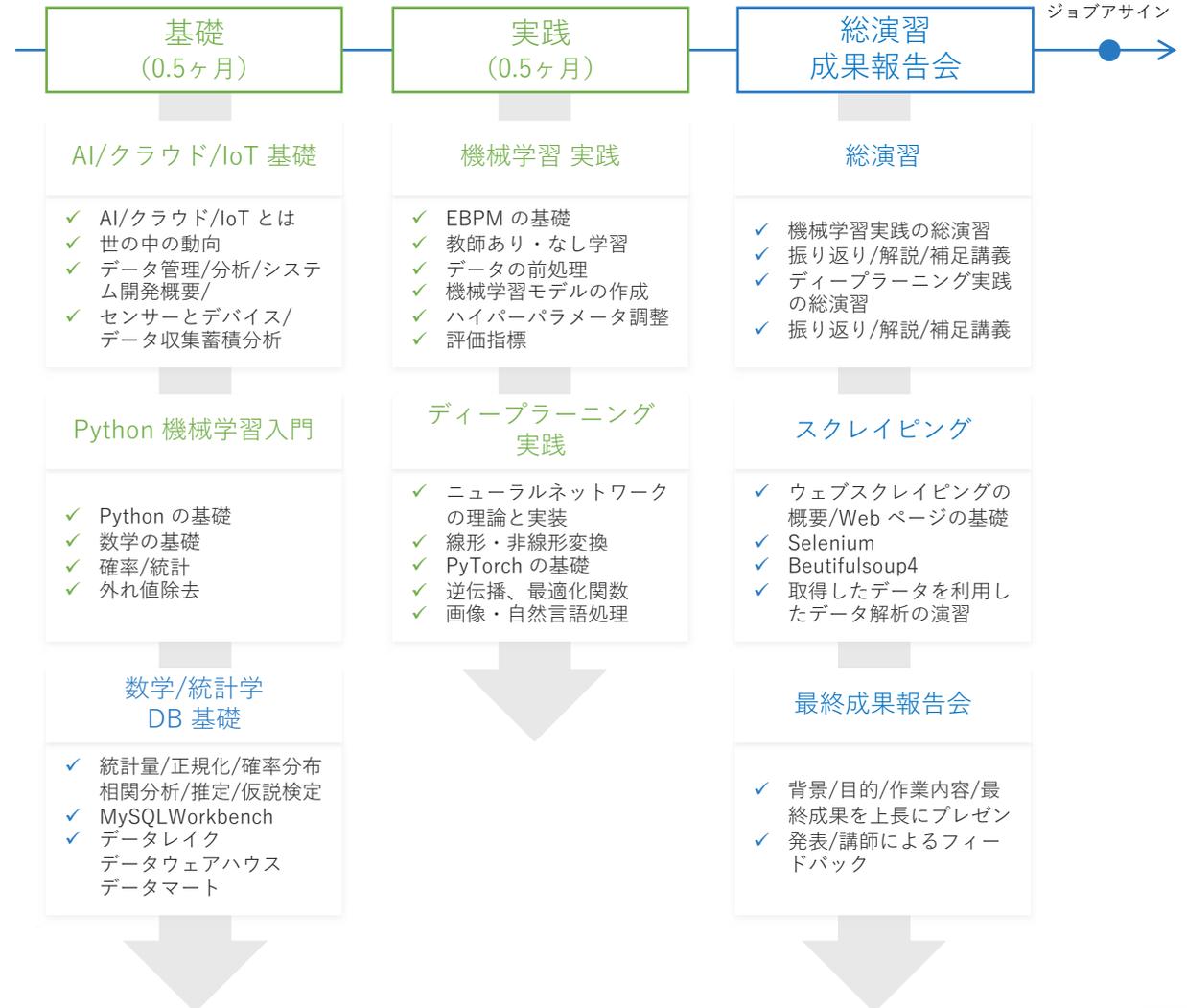


期間	1.5ヶ月間	形式	eラーニング + オフライン
人数	50名	対象	新入社員

### 課題・背景

- ✓ 今後社内では、データ分析/エンジニアリング/データマネジメントスキルが求められる業務が複数存在するため、新入社員の段階から基盤を構築しておく必要がある。
- ✓ 社内のコンテンツや講師だけでは限りがあり、外部の専門的な研修会社を頼るしかなかった。
- ✓ 先端技術の理解だけでなく、どのようにビジネスに活用できるかを事業企画の観点から知識を習得し現場で活かせるようにしたい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.88点
理解度 (5段階)	4.78点
活用イメージ (3段階)	2.86点





## コンサルティング

---

## データサイエンスも活用できる AI コンサル人材の育成

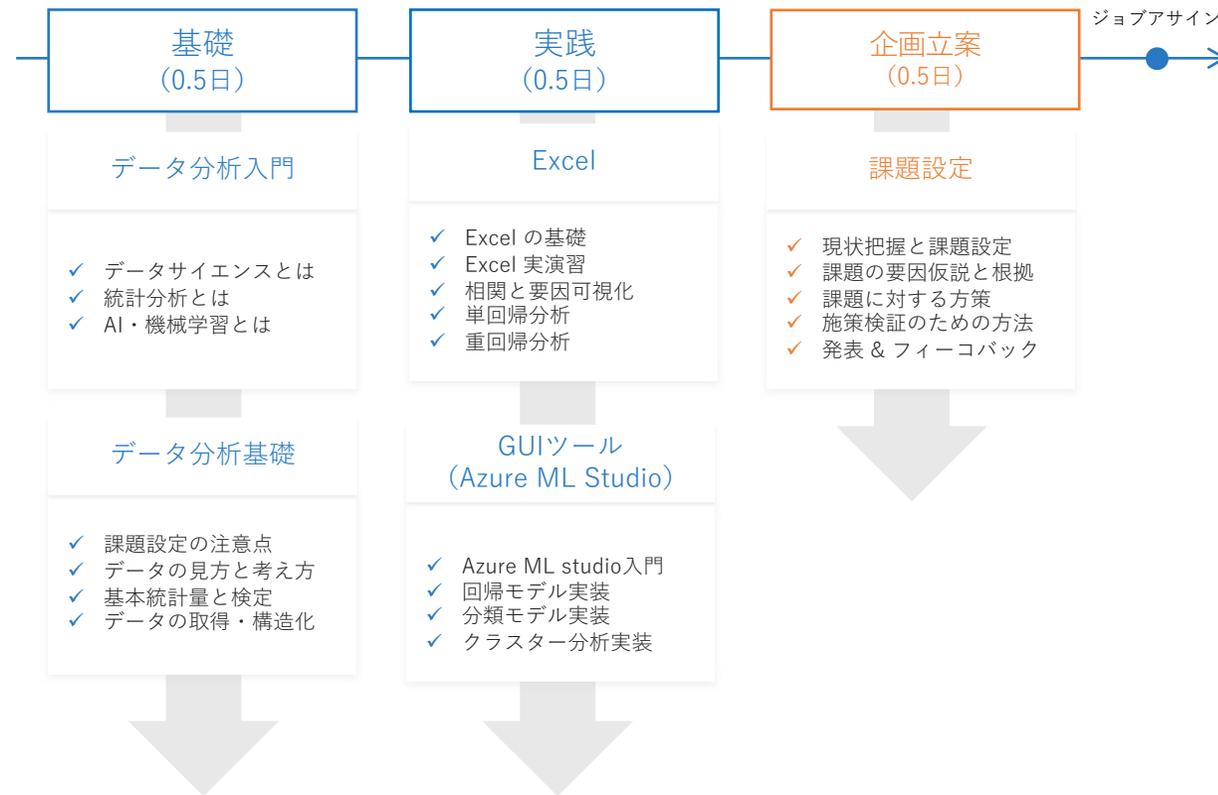
- eラーニング
- 講義
- PBL

期間	1.5日間	形式	オンライン研修
人数	500名超	対象	全社員向け

### 課題・背景

- ✓ 顧客課題をデータドリブンで解決に導いていくため、顧客が保有するデータを分析・活用することができる人材の育成が全社的に求められていた。
- ✓ Excel や BI ツールを用いたデータ分析を行い、お客様に課題を提起することができるスキルの習得を目指す。
- ✓ これまでの課題解決手法に加え、AIや機械学習を活用できる領域について理解を深めることで、効果的に AI 活用の提案ができる人材を育成したい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.0点
難易度・理解度 (5段階)	2.9点
スキル習熟度 (5段階)	3.1点



## 業界事例を用いた演習でデータ分析の全体像を把握し、自走できる人材を育成

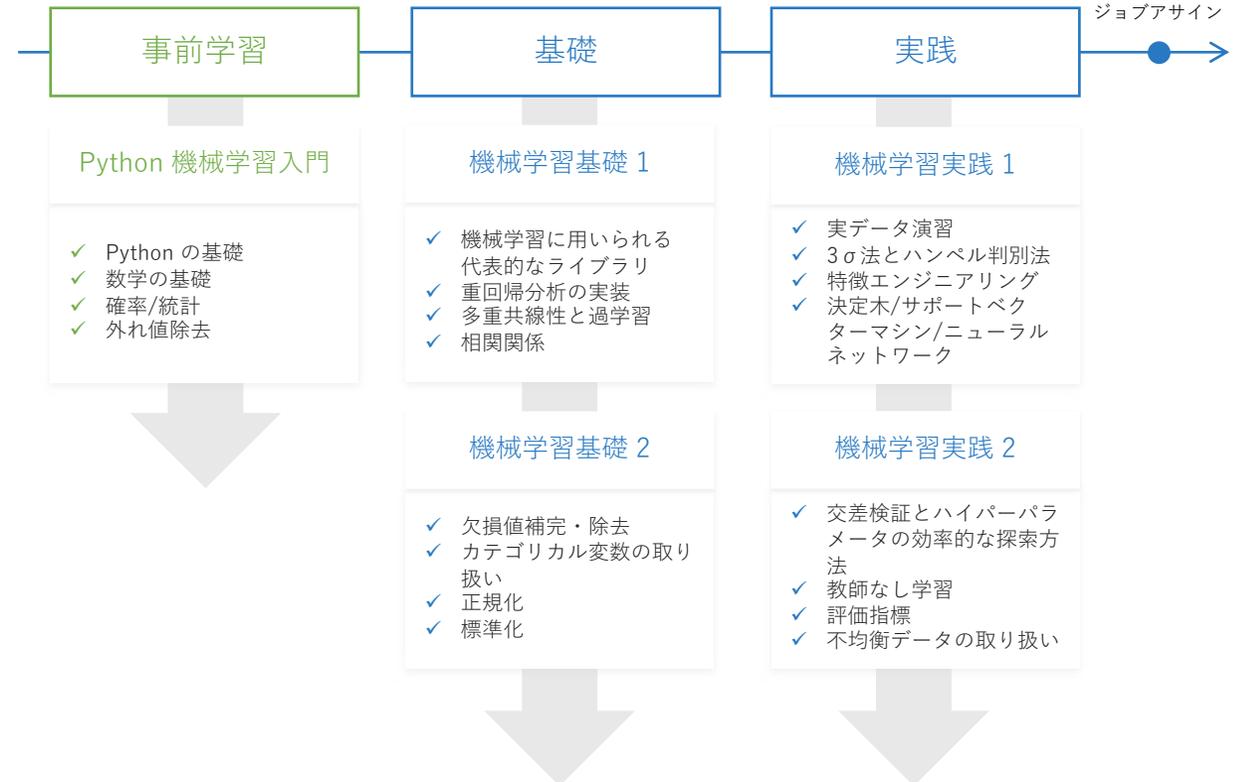


📅 期間	2日間	👤 形式	eラーニング + オンライン
👥 人数	17名	👤 対象	コンサルタント

### 課題・背景

- ✓ 今後社内では、データ分析スキルが求められる業務が複数存在するため、事例を通してアウトプットと説明の仕方を十分に理解し活用するマインドを醸成する必要がある。
- ✓ 社内のコンテンツや講師だけでは限りがあり、今後の内製化に向けてまずは外部の専門的な研修会社に依頼するしかなかった。
- ✓ 事業企画の観点から知識を習得し、モデル選択のアプローチ方法や有効な手段を理解した上で説明できる人材を育成したい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.2 点
理解度 (5段階)	4.4 点
活用イメージ (3段階)	2.87 点





商社

---

## AI 活用の「旗振り役」としてプロジェクトを推進することができる人材の育成

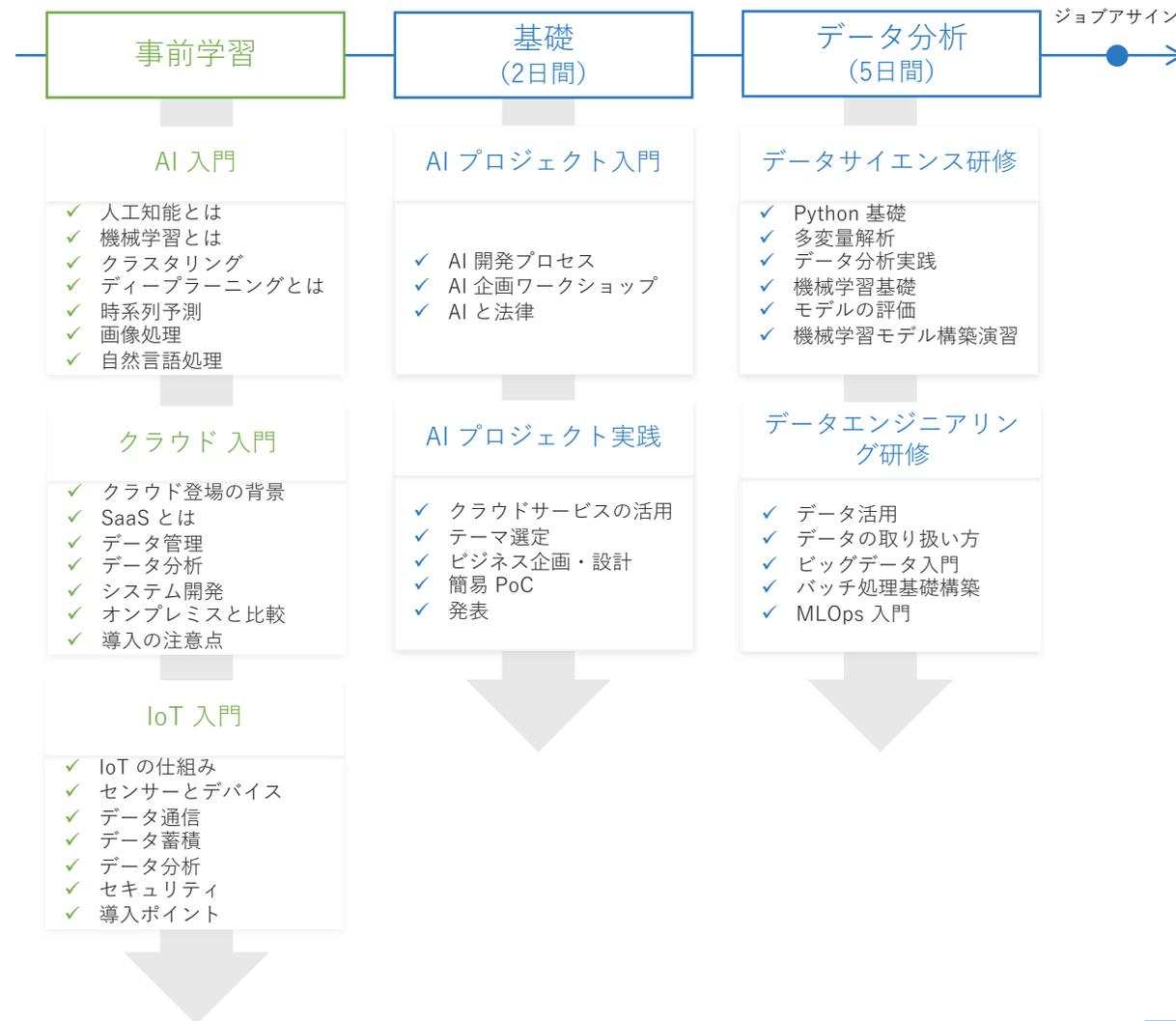
  eラーニング  
  講義  
  PBL

📅 期間	7日間	👤 形式	オフライン研修
👥 人数	8名	👤 対象	新入社員

### 課題・背景

- ✓ どこに AI を活用することができるかといったイメージを掴み、ビジネス課題に対し、AI 活用を通して解決に導く構想を描くことができるスキルを付ける必要があった。
- ✓ 上長指導・管理の下、デジタル化推進における発注者業務を遂行できるような人材を育成したい。
- ✓ データサイエンティスト協会が定めるスキルチェックの中のデータエンジニアリング力とデータサイエンス力の見習いレベル相当する研修を実施。

アンケート結果(過去実施回)	平均点
内容の理解度 (5段階)	4.2点
講師の説明の明瞭度 (5段階)	4.2点
演習の貢献度 (5段階)	4.2点





公共・大学

---

## ゼロからプロジェクトの企画・推進ができる DX 人材を育成

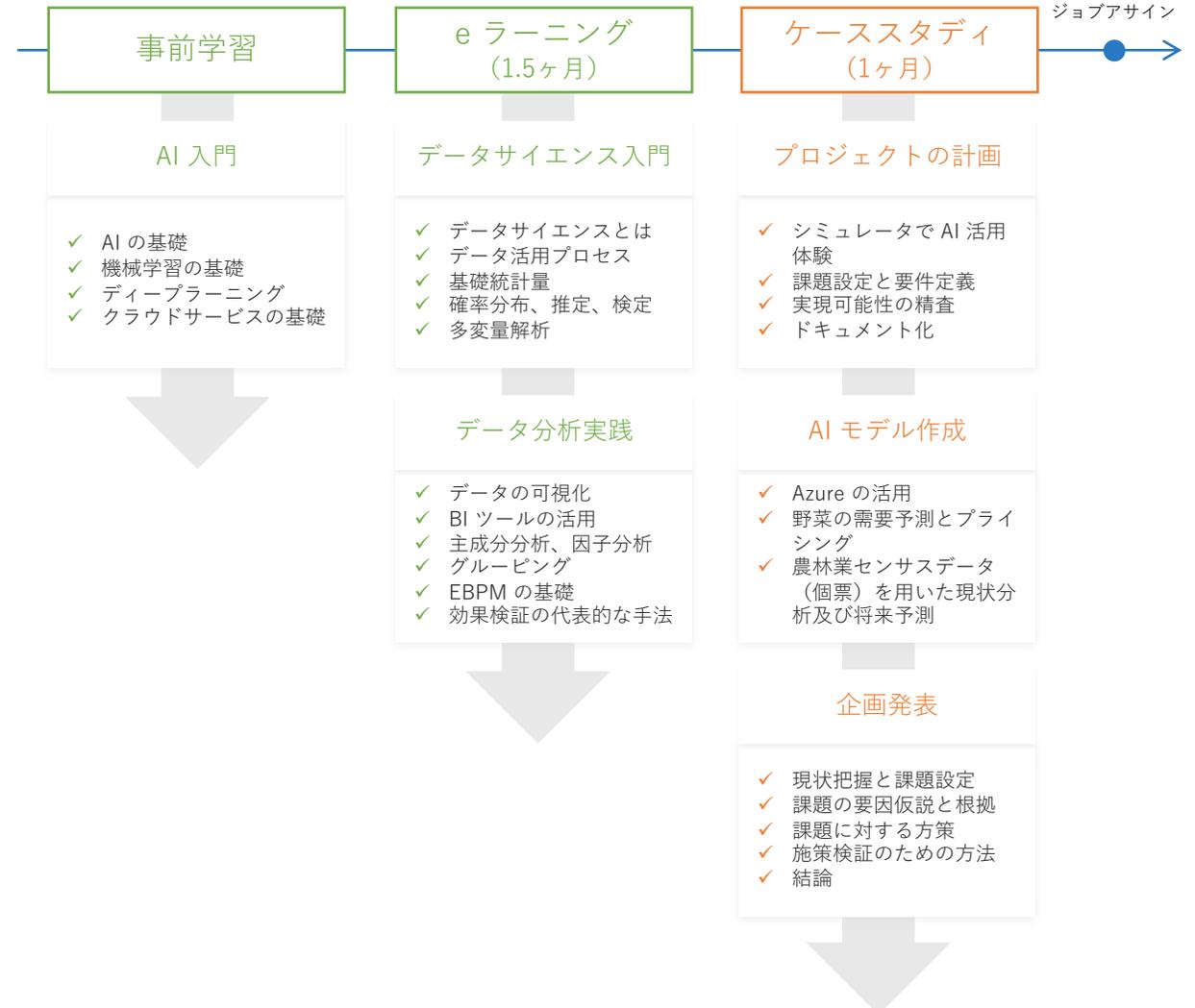
  e ラーニング  
  講義  
  PBL

📅 期間	1.5ヶ月間	👤 形式	e ラーニング + オフライン
👥 人数	20名	👤 対象	中間管理職

### 課題・背景

- ✓ 農業者の高齢化や労働力不足が進む中、データ分析や先端技術の利活用は農林水産業の現場だけではなく行政においても必要不可欠である。
- ✓ AI やデータ活用はあらゆる業界で当たり前となることが想定されるため DX 推進人材としてそれらの前提知識を有しながらプロジェクト企画・推進ができる人材が必要。
- ✓ 携わる政策に対するデータ活用の企画力を身に付け、今後の実務に活かすレベルに育成したい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.1点
難易度・理解度 (5段階)	2.8点
活用イメージ (3段階)	2.3点



## 政策データを扱い業務変革できるデータサイエンティストを3ヶ月間で育成

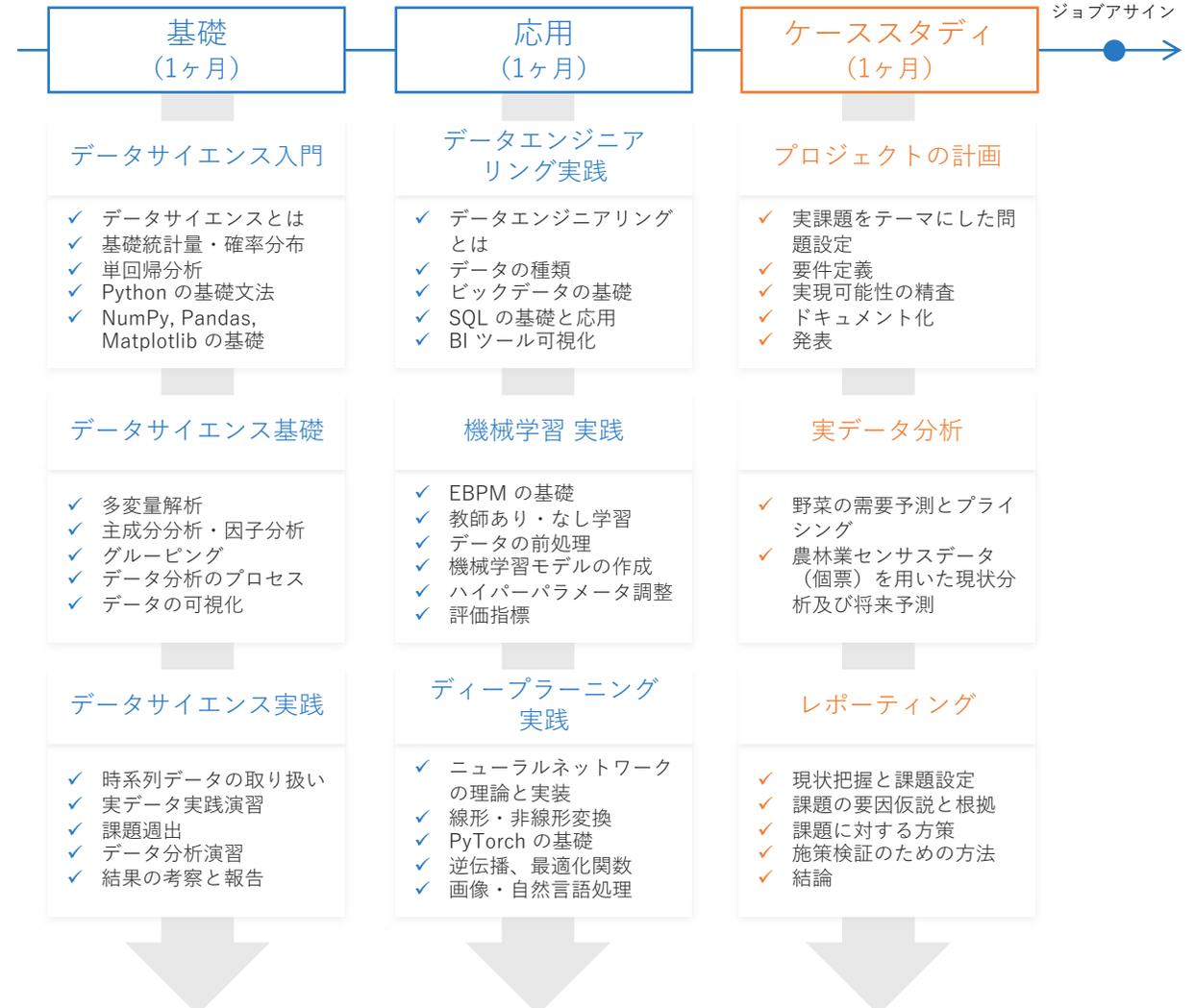
eラーニング  
講義  
PBL

📅 期間	3ヶ月間 (27days)	👤 形式	オフライン研修
👥 人数	15名	👤 対象	若手職員

### 課題・背景

- ✓ 農業者の高齢化や労働力不足が進む中、データ分析や先端技術の利活用は農林水産業の現場だけではなく行政においても必要不可欠である。
- ✓ BI ツールを活用し職員の IT リテラシーの向上を図るとともに、新技術に精通し新しい価値を創造するデータサイエンティスト人材を省内で育成し、データ活用を強力に推進する「農業 DX 構想」実現したい。
- ✓ 実践力を身に付け、携わる政策に関するデータ活用を業務へ適用させていきたい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.8点
難易度・理解度 (5段階)	3.7点
活用イメージ (3段階)	2.6点



## 機械学習・ディープラーニングをゼロから実践レベルまで5日間で引き上げる

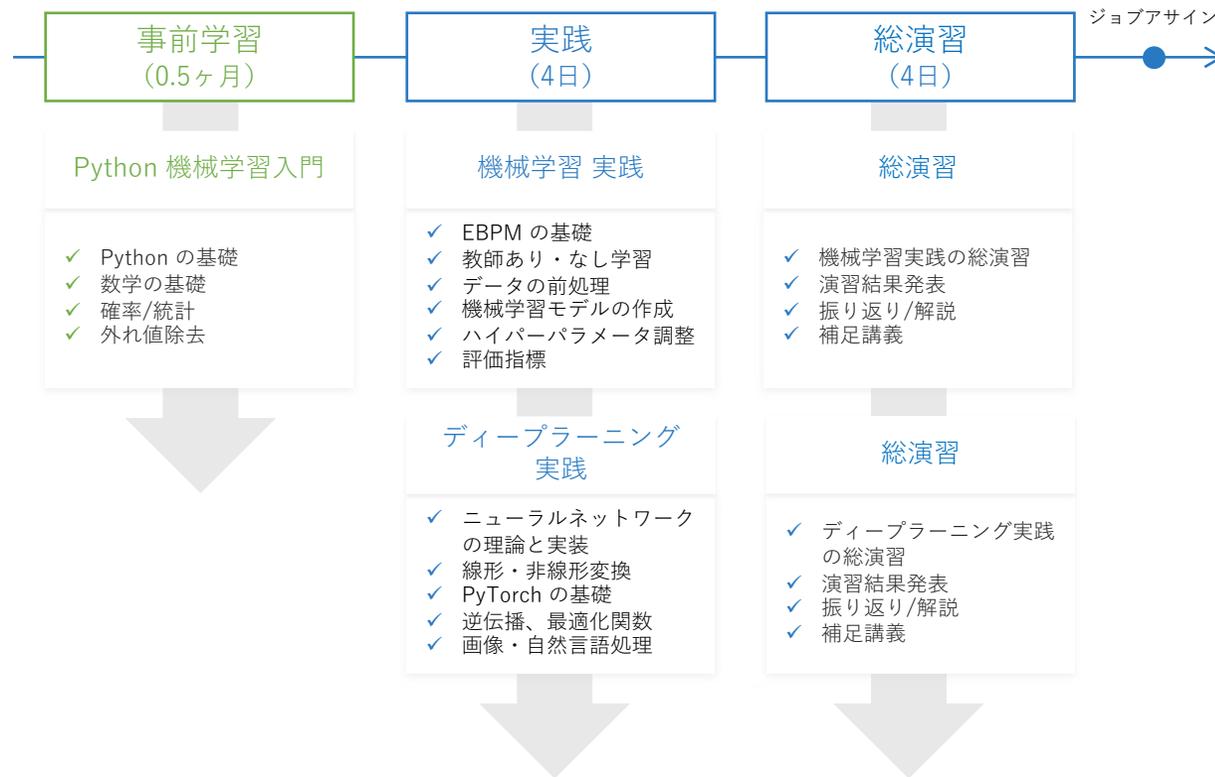


期間	5日間 × 2開催	形式	オフライン
人数	20名	対象	航空装備研究所職員

### 課題・背景

- ✓ AI 技術に関する研究及び利用のために機械学習初学者から実践レベルまで引き上げるための教育が必要だった。
- ✓ GUI ツールではなく、実際にプログラミングが実装でき新技术に精通し新しい価値を想像できる DX 人材を育成したい。
- ✓ 実践力を身に付け、業務のデータを利活用でき、実際の現場課題に適応できる様になりたい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.9点
説明明瞭度 (5段階)	4.7点
活用イメージ (3段階)	3点



※ 10 名/開催で計 2 回実施

## 教員向けの先端技術研修により研究への AI の導入を促進

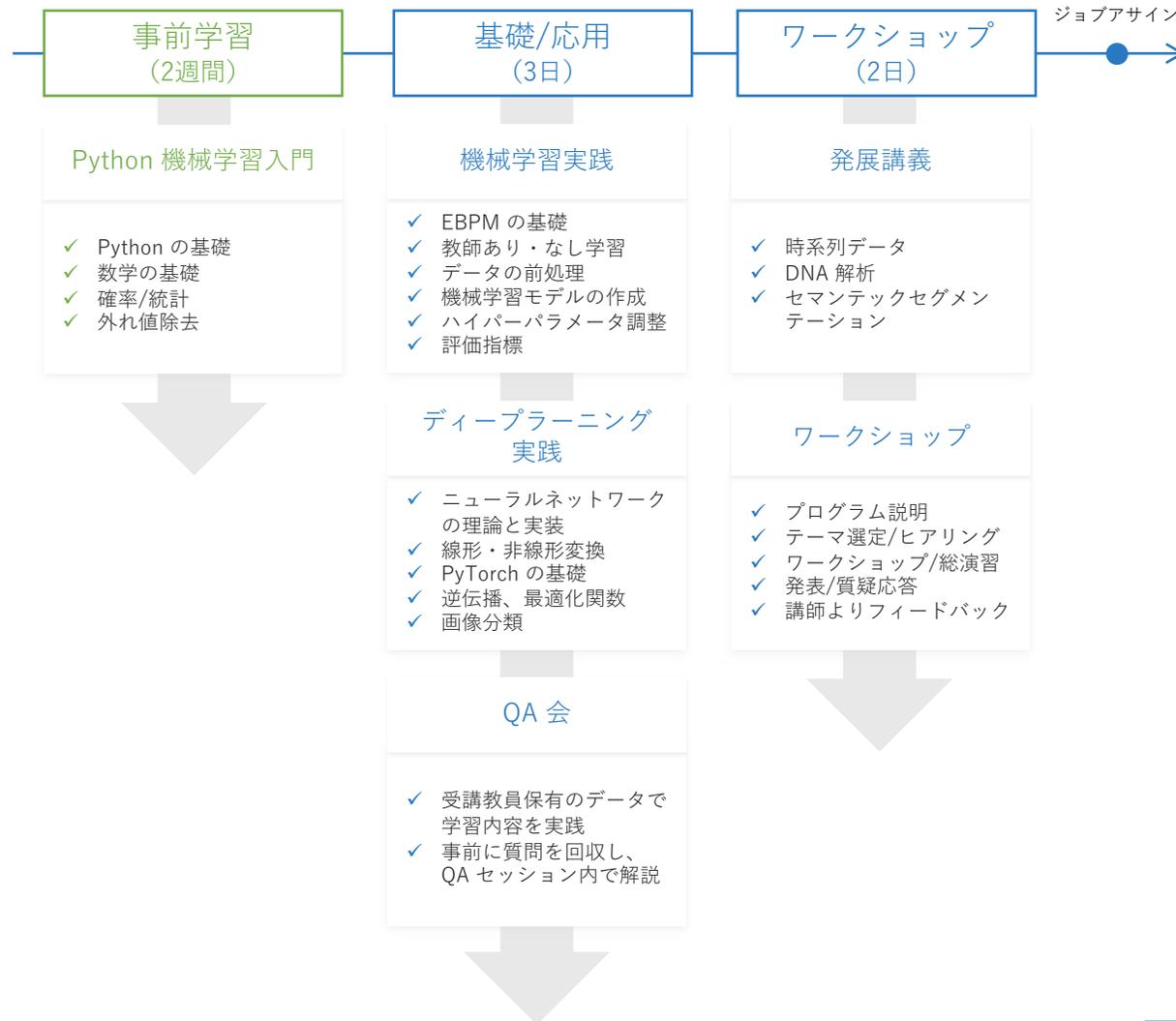
e ラーニング  
 講義  
 PBL

期間	1週間	形式	e ラーニング + オンライン
人数	20名	対象	教員

### 課題・背景

- ✓ 卓越大学院プログラムの一環にて、本学教員の研究への AI の導入を促進する目的で、教員向けに AI 研修を行う必要があった。
- ✓ 代表的なテーブルデータや画像のデータセットに対して、実際に機械学習モデルをいくつか実際に作り、精度を高めるための手法等を実践レベルで実装できるようになってほしい。
- ✓ AI を実際に作る過程を学習し、今後の研究に向けて更にモチベーションを高めるような研修を実施したい。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.88点
説明明瞭度 (5段階)	4.33点
活用イメージ (3段階)	3点





## 製薬業

---

## データサイエンスを基礎から学び PoC を主導できる人材を育成

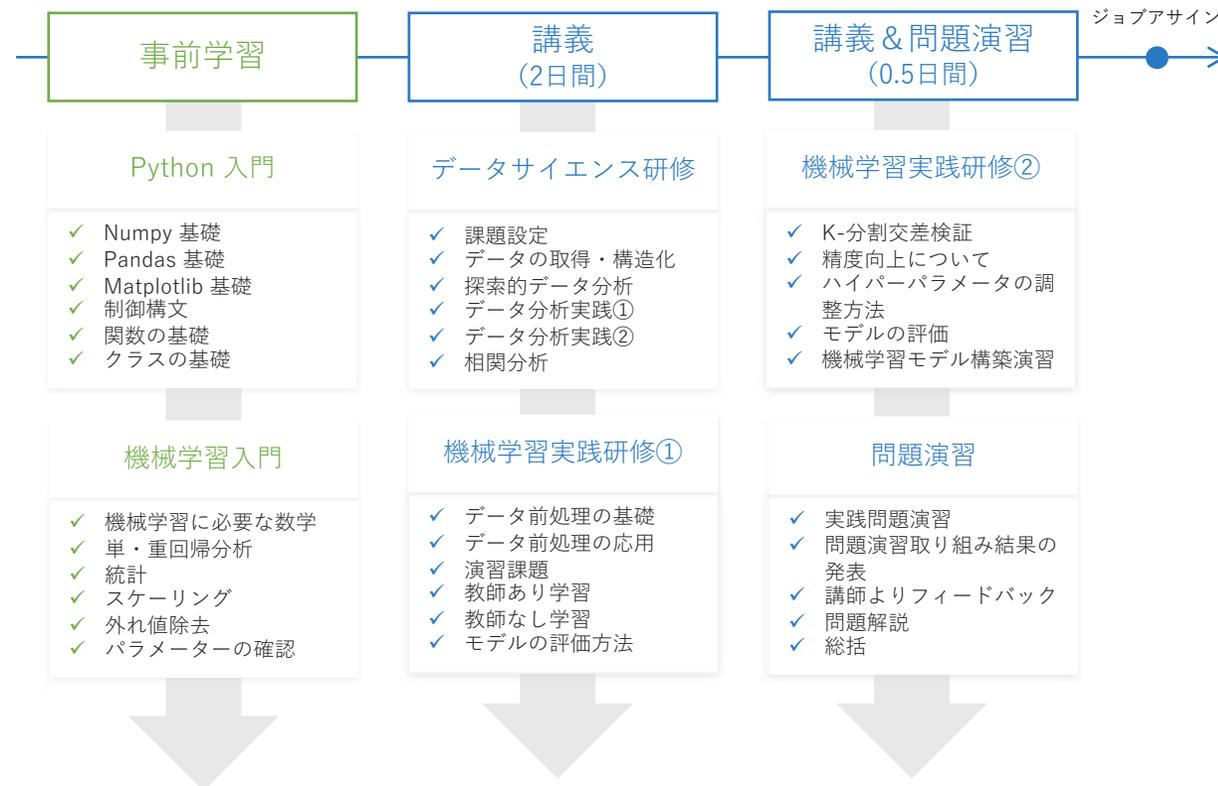


📅 期間	2.5日間	👤 形式	オンライン研修
👥 人数	16名	👤 対象	エンジニア層

### 課題・背景

- ✓ 社内のエンジニアの中でも AI などの先端技術を理解した上で案件を実行・推進できる人材が不足していた。
- ✓ Python を扱うことができる人材が不足しており、今後の増加することが想定される AI 案件に対応するため Python が扱えるエンジニア人材を増やしていきたい。
- ✓ エンジニア層に対し今後必要となる技術の意識付けが来ている状態を目指したい。
- ✓ どのようにデータサイエンスを適用していくのかを基礎の部分から学べる研修を開催したい。

アンケート結果(過去実施回)	平均点
研修満足度 (5段階)	4.3点
講師の説明の明瞭度 (5段階)	4.1点
内容の理解度 (5段階) (5段階)	3.8点





## 運輸業

---

## 全社レベルでデータ分析のエキスパートを目指す教育プロジェクト

  eラーニング  
  講義  
  PBL

📅 期間	3日間	👤 形式	eラーニング+オンライン
👥 人数	100名	👤 対象	全社員向け

### 課題・背景

- ✓ 社内で毎日発生する数千万件にもものぼる膨大なデータを分析できる人材が一握りしか居ない。
- ✓ データ分析を他部署に依頼するとタイムラグが発生し、問題解決まで時間を要することがあった。
- ✓ データ分析を専門部署に任せるのではなく、現場レベルでスピーディーに解決できる状態を目指す。
- ✓ 各部署にデータ分析のスペシャリストを配置し、各社員が基礎的なデータ操作ができることが直近のゴール。

アンケート結果	平均点
研修満足度 (5段階)	4.5点
難易度・理解度 (5段階)	3.6点
スキル習熟度 (5段階)	4.4点

